

近隣の自然の変化に触れる No. 1 / 本橋野草苑

2月上旬の草花 Flowers in early February @Motohashi garden

2022年2月14日

吉野輝雄

芦花公園から歩いて5分の所に本橋野草苑がある。150年近くの歴史をもつ家で、徳富蘆花が粕谷に入村した明治40年(1907年)には地主屋敷と広い庭を構えていた。私が粕谷に引っ越して来た時には、お庭を野草苑として市民に開かれていたので、多種多様な季節の花を見に度々訪れ、写真を撮っては楽しませて頂いた。特に初春から夏にかけて、他ではなかなか見ることができない草花を見ることができ、毎回感動に満たされ、庭の手入れをされていた本橋さんのお婆ちゃんに感謝して帰宅した。また、この竹林は世田谷百景の一つに選ばれている。その理由とお婆ちゃんとの思い出は後の号で詳しく解説する予定だ。なお、今回紹介する草花は、2000年頃から撮り溜めていた写真の中から選んでおり、ほんの一部が今年撮ったものであることをお断りしておく。

今号は、2月初め(早春)の庭で見た草木の花を写真アルバムに収めた。先ず、セツブンソウ(節分草)の群生には毎年仰天させられる。まさに贅沢な景色だ。さらにフクジュソウ(福寿草)。マンサク(満作)、ロウバイ(蠟梅)、紅梅、白梅が美しく手入れされていて、庭や軒下に咲いている姿に出会える。珍しい花としては、極寒の朝にだけ見られるシモバシラ(霜柱) <茎を裂いて成長した綿のような霜柱>、冬咲きのカンアヤメ(寒菥蒲)。水仙やスノードロップ(松雪草)は春告げ花として心を和ませてくれる。正月に赤い実をたくさん付ける縁起の良いマンリョウ(万両)、センリョウ(千両)の実が落ちた後に現れる百両だろうか？